

会 議 録	
令和５年度 第１回和光市ヘルスソーシャルキャピタル審議会	
開催年月日	令和５年５月１１日（木曜日）
開催場所	和光市保健センター ２階多目的室
開会時刻	午後１時００分
閉会時刻	午後２時３０分
出席委員	事務局
村山 洋史 筒井 孝子 大廻賀 政昭 細田 泰雄 清水 勝子 木田 亮 加藤 典子 本間 貞夫	保健福祉部長 長坂 裕一 保健福祉部次長兼健康保険医療課長 梅津 俊之 健康保険医療課主幹 細野 千恵 健康保険医療課課長補佐兼保健センター所長 飯田 真子 健康保険医療課統括主査 梶原 絵里 健康保険医療課主査 小林 翔（記） 健康保険医療課管理栄養士 平原 麻美
欠席委員	傍聴人 １名
佐藤 貴映 山本 眞由美	
備考	次第 - 開会 - 挨拶 - 新委員の紹介 - 会長及び副会長の選出 - 議題 - 審議事項１ 「第二次健康わこう２１計画・第三次和光市食育推進計画中間評価及び市民アンケート調査票について」 - 審議事項２ 「令和５年度食育アンケート（小学５年生・中学２年生対象）について」 - その他 - 閉会 会議資料 ◆【資料１-１】健康わこう 21 中間評価_調査票追加項目について ◆【資料１-２】地域の絆と安心な暮らしに関する調査_調査票（案） ◆【資料１-３】絆調査票 削除・変更事項 ◆【資料２-１】令和５年度食育アンケート（小学５年生・中学２年生対象）について ◆【資料２-２】令和５年食育アンケート調査票（案）（小５・中２対象） ◆当日参考資料「健康わこう２１計画・第三次食育推進計画施策・目標値一覧」 ◆当日追加資料「今後のスケジュール」

発言者	会議内容
事務局	ただいまより令和５年度第１回ヘルスソーシャルキャピタル審議会を始めさせていただきます。 本日は、お忙しい中、委員の皆様には、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。 この審議会につきましては、和光市市民参加条例第１２条第４項の規定により、原則公開となっております。 また、会議後には会議録を作成し、公開をいたします。その際、記録については、要点記録とし、各委員のご意見、ご発言については、委員名を明記した上での議事録といたしますので、ご了承ください。 なお、会議録作成のため録音を行っておりますが、作成後に消去いたします。それでは、次第に従いまして、進行させていただきます。 審議会の開催に先立ちまして、長坂保健福祉部長より、ご挨拶させていただきます。
長坂部長	本日は公私ともご多用のところ、ヘルスソーシャルキャピタル審議会にご出席いただきありがとうございます。 ４月１日から保健福祉部長になりました長坂と申します。開会に先立ちまして一言ご挨拶をさせていただきます。 新型コロナウイルス感染症が発生してから３年以上の月日が経過しましたが、５月８日に感染症法上の位置づけが２類相当から５類に移行するなど、社会・経済活動の正常化に向けた大きな区切りの時期となっています。 一方で、５月８日から新型コロナワクチン接種の新しい追加接種として、重症化リスクの高い方を対象とした「令和５年春開始接種」が開始されるなど、感染症対策が引き続き行われています。 このような社会の大きな転換期ではありますが、本市としても社会・経済活動の正常化と市民が健康に暮らせるまちの実現を目指して一層の取り組みを行っていく必要がございます。 本日の審議会では、審議事項１「第二次健康わこう２１計画・第三次和光市食育推進計画中間評価及び市民アンケート調査票について」、審議事項２「令和５年度食育アンケートについて」を議題とさせていただいており、今年度実施いたします計画の中間評価の重要な基礎資料となる市民アンケート調査について具体的な内容をご審議いただくこととしております。限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございました。 つづいて、今年度から新しく当審議会の委員にご就任いただい

発言者	会議内容
	た方のご紹介をいたします。 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム研究副部長の村山洋史委員です。
村山委員	～村山委員挨拶～
事務局	つづいて、朝霞地区医師会からご推薦によりご就任いただきました国立病院機構埼玉病院院長の細田泰雄委員です。
細田委員	～細田委員挨拶～
事務局	以上、2名の方に令和5年4月1日より審議会委員にご就任いただきました。よろしくお願いいたします。なお、委嘱書については机上にてお渡しさせていただいておりますのでご了承ください。 前会長の藤原委員、前副会長の原委員が令和4年度末にご退任され、現在、会長及び副会長が決まっておりませんので、はじめに会長の選出を行いたいと思います。 会長選出までは保健福祉部長が議事を代行いたします。長坂保健福祉部長をお願いします。
長坂部長	それではただいまから、令和5年度第1回ヘルスソーシャルキャピタル審議会を開会いたします。 和光市健康づくり基本条例第18条第2項の規定に基づき、ヘルスソーシャルキャピタル審議会の委員の定数は10名となっており、その過半数である6名の出席が会議の成立要件となります。本日の出席状況について事務局から報告願います。
事務局	本日の出席は8名です。
長坂部長	ただいまの報告により出席者数は過半数を超えておりますので、審議会は成立となります。それでは、会長の選出を行いたいと思います。 会長選出につきましては、和光市健康づくり基本条例第17条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める」となっております。自薦・他薦のいずれの方法でも結構です。まず会長の自薦・推薦へのご意見をお願いいたします。
加藤委員	藤原会長の後任である村山委員を推薦いたします。
長坂部長	加藤委員より村山委員を会長にお願いしたいとご推薦がありましたがいかがでしょうか。
全委員	(異議なしの声)

発言者	会議内容
長坂部長	それでは、会長は村山委員にお願いしたいと思います。 つづいて、副会長の選出をいたします。この件につきまして、村山会長からご意見をいただけますでしょうか。
村山会長	地域の基幹病院である埼玉病院でご尽力されている細田委員に副会長をお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。
全委員	(異議なしの声)
長坂部長	異議なしのため、細田委員に副会長をお願いしたいと思います。では、ここからは、和光市健康づくり基本条例第18条第1項の規定により、村山会長に進行をお願いします。会長、副会長におかれましては席のご移動をお願いいたします。
村山会長	ただいま、ヘルスソーシャルキャピタル審議会の会長にご指名いただいた村山です。よろしくお願いいたします。 それでは、さっそく議事に入りたいと思います。議事に入る前に今回の審議会の議事録署名人を委員名簿の順で指名させていただきます。 清水委員、木田委員 議事録の署名をお願いいたします。 傍聴の皆様に申し上げます。本日配布している資料は、会議終了後、回収させていただきます。よろしくお願いいたします。 それでは、審議事項1「第二次健康わこう21計画・第三次和光市食育推進計画中間評価及び市民アンケート調査票について」を、事務局から説明をお願いします。
事務局	和光市健康保健医療課ヘルスサポート担当の梶原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 市の健康増進計画である、「健康わこう21計画」は、平成20年～29年の10年間を第一次計画として策定し、第二次計画は和光市食育推進計画と一緒に、平成30年～令和9年までの10年間を計画期間として策定しました。 和光市国民健康保険事業計画が3年間、和光市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）が6年間の計画であることから、本計画は3年目及び6年目に見直すこととしておりました。 令和元年に、計画見直しの為の事前調査を実施し、3年目となる令和2年度に中間評価を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、行動制限により市民の生活スタイル等、様々な事が大幅に変わりました。

発言者	会議内容
	国の第二次健康日本 21 も、計画期間が令和 5 年度までに 1 年延長されました。 また、埼玉県健康埼玉 21 は令和 4 年度で単独計画としては終了し、県の健康長寿計画に包含され、上位計画である埼玉県保健医療計画と計画期間を一致させた為、令和 5 年度までとなっています。 新型コロナウイルス感染症による影響と、国や県の計画の動向を勘案し、市の健康わこう 21 計画の中間評価も延期することとし、今年度、市民調査と中間評価を実施いたします。 資料 1-1 令和 5 年度第 1 回ヘルスソーシャルキャピタル審議会をご覧ください。 2 ページをご覧ください。 中間見直しの方向性は、4 つを想定しています。 【方針 1】第二次健康わこう 21 計画・第三次食育推進計画の枠組みを踏襲する 【方針 2】人口動態及び計画前期の実績を踏まえた施策の見直し 【方針 3】当初計画策定時に「見直す、検討する、設定する」等としている事業等の数値等の設定 【方針 4】社会情勢を踏まえ、変更・検討すべき事項についての検討 見直しの方向性については、各課からの計画前期の評価及び実施する市民調査の分析結果から、方向性について修正がある場合には、次回のヘルスソーシャルキャピタル審議会でお示ししたいと思います。 3 ページをご覧ください。 当初計画の基本理念、基本方針は、記載のとおりです。 重点項目の概要については、計画書の事業体系 68 ページに記載しており、踏襲してまいります。 また、見直しの内容は、記載の通りです。 4 ページをご覧ください。 計画の位置づけと他の計画との関係は、健康わこう 21 計画は、市の総合新興計画の保健健康分野に紐づく理念と実行計画として位置づけられています。また、今年度、国保医療費計画、特定健診実施計画、データヘルス計画、いわゆる国保ヘルスプランの策定年度であるため、医療費分析等の結果を踏襲したいと思っています。 当初計画からの変更点として、「自助・互助」の下部「各圏域保健コーディネーター配置」を「ヘルスサポーター等（地域人材）」に変更しています。 変更理由は 2 点です。現状「保健コーディネーター」は存在せず、今後も配置予定がないこと、当該コーディネーターの役割として想定していた、地域における「健康わこう 21」の取組の推進をヘルスサポーターやその他の地域人材に担ってもらい地域ぐ

発言者	会議内容
	るみの施策展開を見据えていることからです。 5 ページをご覧ください。 ここからは、「見直す、検討、設定」等としている事業の数値等の設定についてご説明します。 基本的には、健康日本 21 や県の計画値等を参考に数値目標の修正を図るものと、目標値として掲げた内容が実施困難なものについて修正案を示しています。 その中で主な内容について説明します。 計画書 79 ページ、健康的な食生活・食行動の食塩摂取量の減少では、2020 年度食事摂取基準で、男性 7.5 g、女性 6.5 g に変更されたため、目標値を修正します。 計画書 83 ページ、適切な身体活動・運動習慣の定着に関する評価指標の 1 日 30 分以上の運動を週 2 回以上している人の割合では、健康日本 21 計画で、1 日 30 分以上の運動を 1 年以上運動している者の割合となっているため、今回の調査票に運動の継続期間を問う設問を追加します。調査票では問 16-1 にあたります。 計画書 85 ページ、習慣的喫煙の削減に関する評価指標の受動喫煙の機会を有する者の割合では、健康日本 21 計画では、望まない受動喫煙のない社会の実現を目標に変更しているため、絆調査では、家庭かそれ以外かの質問に修正し、目標を変更します。 計画書 88 ページ、主に働いている人の休養の重要性のストレスの要因を分析するための市民の睡眠に関する実態把握では、東京医科大学との連携協定の元、令和 5 年度以降に市民調査を実施し、実態把握を行い、各計画において連携を図ります。 6 ページをご覧ください。 計画書 92 ページ、現役世代からの健康増進支援のうち社会保険加入者へのアプローチは、データ収集が困難であることから、市民全体への趣旨普及活動を推進する方向へ修正します。 7 ページをご覧ください。 計画書 100 ページ、地域における健康づくりの取組に関する評価指標のうちヘルスサポーター養成者数は、令和 4 年度末現在の養成人数が 308 人であり、現実的に目標 1,000 人は難しいため、実施方法等目標人数の見直しを検討します。 8 ページをご覧ください。ここからは、調査票の追加項目についての説明ですが、その前に、簡単に「絆調査の概要」についてご説明いたします。 調査対象者は 5/15 時点の 20 歳以上の和光市民で、要介護 3 以上の方は除きます。 対象人数については、65 歳以上は悉皆調査なので約 13,000 人 20～64 歳については、約 14,000 人弱です。 市がコンサル会社に委託する部分と、東京都健康長寿医療センター研究所が実施する分の対象者を分けて調査票を発送致します。 この中には、前回調査の回答者も含まれており一部無作為です。

発言者	会議内容
	調査票発送は6/15を予定しています。本日、委員の皆様からいただいたご意見を参考に、調査票の内容を確定させてまいりたいと考えております。 一次の回答〆切が6/30、その後7/7にお礼状兼督促状をはがきで発送し、最終回収〆切を7/21としています。 また、令和5年3月のヘルスソーシャルキャピタル審議会で、調査対象者に障害者の方が含まれていたのかについての質問に対して、回答に誤りがございました。前回、対象者に含まれていたと回答致しましたが、実際には、令和元年度は障害手帳保持者に対してのニーズ調査を同年に実施したため、絆調査から障害手帳保持者は除外しました。この場で訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。しかし、今回は、障害手帳保持者の方は除外いたしません。 理由としては、障害ニーズ調査を前年に実施していること、障害ニーズ調査では、食事・栄養に関する調査項目がないことから、次期計画策定を見据えて、今回からは障害手帳保持者も対象者に含め、データを蓄積・分析することで今後の政策や取組に反映させていきたいと考えているためです。調査票に、障害手帳の保持の有無、種別を問う設問を入れる予定としています。 資料1-2は、調査票本体ですが、その調査票の中から追加項目のみ抜粋して8～27ページまで記載しています。主な追加理由を抜粋してご説明いたします。 問1は、アンケートの回答に対して個人は匿名化し、今後のデータ取り扱いへの同意としています。 9ページをご覧ください。 問4-1は、指標「健康体格の実現」「特定健診受診者の改善率向上及び未受診者に対するフォロー」の実態を把握するために追加しました。 問10は、「健康関心度尺度」健康に関心がない層の実態や特性を把握し、健康づくりの施策決定における資料とするため追加しました。 10ページをご覧ください。 問11は、65歳以上の方のみを対象とした基本チェックリストです。 11ページをご覧ください。 問11～14はフレイルの指標に用います。 問16-1は、健康日本21の指標と合わせるために追加しました。 12ページをご覧ください。 問18～20は、身体活動量を定量化するための設問です。ドメイン毎の身体活動量や問42の普段の移動手段の項目を合わせることで総身体活動量を算出することができ、市民の身体活動の実態をより詳細に把握するために追加しました。 13ページをご覧ください。 問21～23は、身体活動を促す市の施策評価ができるように追加

発言者	会議内容
	しました。 14 ページをご覧ください。 問 26 は、前回調査では、主食をひとくくりとしましたが、より詳細な分析ができるようにそれぞれ分けて質問します。また、食品摂取の多様性及びタンパク質の摂取不足のリスクを評価するため、摂取頻度の選択肢を 7 択に細分化しました。 15 ページをご覧ください。 問 29 は、前回調査で使用した食塩摂取頻度算出ソフトが販売終了となったため今回は、推定食塩摂取量が算出できる「新潟県版塩分チェックリスト」に変更しました。 問 30 は、コロナ禍による食の確保手段の変化と食塩摂取状況を把握するため追加しました。 16 ページをご覧ください。 問 39-1 は、健診や健康づくり保健事業の周知・啓発に手法として効果的な媒体の把握を行うための設問で、本人が実施できることを把握します。新たに、メール、インターネット、YouTube 等の配信動画の視聴を追加しました。 17 ページをご覧ください。 問 42、43 は、健康日本 21 では身体活動量の増加に資する環境整備の必要性が指摘されています。居住地域の周辺環境を評価するため追加しました。 18 ページをご覧ください。 問 46、47 は、家族内孤立を評価する設問で、家族内で心理的に孤立していると、自殺のリスクが高まることが報告されており、実態を把握するため追加しました。 問 48 は、これまでの研究から、孤立状態にあっても専門職との関わりが重要な交流になっていることが示唆されています。専門職との関わりがあることが高齢者の心身の健康にどのように影響するかをより詳細に検証するため追加しました。 19 ページをご覧ください。 問 49 は、付き合いの満足度を評価する設問で、交流頻度とは別に、満足度が心身の健康に影響する可能性があるため追加しました。 20 ページをご覧ください。 問 50 は、社会活動への参加状況を把握するための設問で、他自治体とも比較できるよう、厚労省形式（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の項目）に変更し、さらに、今後の参加意向も把握できるよう、選択肢を追加しました。 問 51 は、人付き合いに対する志向性を問う設問です。個人の考え方が行動に影響すると考えられるため追加しました。 21 ページをご覧ください。 問 52 は、社会的孤立と健康との関連をより詳細に検証するために追加し、社会的孤立状態にはないが、役割意識が持てない・低いことが心身の健康に影響を与えるのかを検証する為です。付き合いはあるが、役割意識が低いことが健康にネガティブな影響を

発言者	会議内容
村山会長	与える場合は、役割を持てるような地域づくりを行うことが必要となるため追加しました。 22 ページをご覧ください。 問 53、54 は、資料に記載のとおりです。 問 56 は、就労ニーズに関する設問です。 問 57 は、有償ボランティアに関する設問で、社会参加の促進に向け、特に高齢者やプレシニアの就労・ボランティア活動に対するニーズを把握するため追加しました。 理由は、資料に記載のとおりです。 問 58、問 58-1 は市からアウトリーチをかける際、必要となる個人情報に記載していただく予定でしたが、この部分は、別紙扱いにして、希望者のみ同意を得て個人情報の記載した用紙を回収することにするため、調査票からは除きます。 問 59 から 62 及び問 68 は、資料に記載のとおりです。 次に、資料 1-2 をご覧ください。地域の絆と安心な暮らしに関する調査票（案）です。全部で 16 ページです。 前回の調査票は 20 ページで、64 歳以下と 65 歳以上の調査票を分けていましたが、今回は、同じ調査票にして、3 ページの基本チェックリストの部分のみ 65 歳以上の方を対象としています。 前回調査では、20 ページとページ数が多く、調査票に関してのご意見が多数あり、回答者の方々にご負担をかけてしまいました。また、2 種類の調査票にすると、基準日時点での年齢で調査票を発送するため、64 歳の人は届いた時点では年齢が 65 歳となってしまう、その理由を記載した説明文書を後日送付した経緯があったことから、今回は 1 種類の調査票にしました。 資料 1-3 をご覧ください。 令和元年度調査からの削除設問と理由については、資料の左側は調査内容、右側にその理由を記載しています。 主に、今回は、中間見直しのため施策の項目に沿って設問設定をしたため、削除しています。また、目標設定している箇所については、データを取得する必要があること等から加除しています。詳しくは、記載のとおりです。 また、本日机上配布した、「当日参考資料」第二次健康わこう 21 計画・第三次食育推進計画 施策・目標値一覧につきましては、「各課の施策の評価と今後の方向性」を示したものです。次回審議会で審議いただく予定の、目標値設定や施策・取組の見直し案の際の根拠資料とするものです。参考に御目通しいただけらと思います。 また、本日、机上配布した「今後のスケジュール」は参考資料としてご覧ください。 以上で私からの説明を終わります。 事務局の説明が終わりましたので、この調査につきましてご質問、ご意見などございましたら、お願いいたします。かなりの分量の説明をいただいたので、なかなか頭にすっと入らない部分が

発言者	会議内容
加藤委員	あるかもしれませんが、時間の関係もありますが、今から20分程度この議題に時間を割ければと思っております。ご意見がある方から言っていただいて、順々にご発言いただければと思います。それでは、加藤委員、お願いします。 3つあります。1つが問22の健康遊具が設置されている公園や運動施設があり、それを利用していますかという質問ですが、例えば和光樹林公園があるんですけども、公園は利用しているけれども、その施設は利用していない場合はどのように回答するのか判断に迷います。 次に、問29ですが、主食を重ねて食べますかという意味がわかりにくいです。例えばこれは焼きそばパンみたいなことを言っているのか、それとも主食をラーメンライスみたいに、主食・主食みたいなものを食べるのか、意味がよくわからなかったです。 次に、問49です。自分がアンケートを回答する立場で見ましたが、市内には高齢者の夫婦で住んでいる方がとてもたくさんいます。そうすると、同居しているご家族との付き合いや関係性、配偶者の付き合いや関係性については全くイコールです。そうすると同じことを聞かれていることになってしまいます。この3か所がちょっと引っかかりました。
村山会長	ありがとうございます。これに関しては、本当にご指摘のとおりで、公園はよく利用するけれども、器具といいますか、そういうものは利用していない人とか、あるいはさっきの主食を重ねるという、多分焼きそばとご飯みたいな話だと思うんですけども、もうちょっと表現が必要かなということですね。それから、ご夫婦のみの場合には、この質問は同じことを意味しているということだと思いますので、この辺は文言を修正するなりして、皆さんが回答しやすいようにしていただければと思います。ありがとうございました。事務局もそれでよろしいでしょうか。
事務局	はい。
村山会長	ありがとうございます。筒井委員、お願いします。
筒井委員	さっきご説明がなかったのですが、この調査は継続調査でよかったでしょうか。
事務局	この調査自体は共通している継続の部分の内容もありますし、あと加除して調査の内容を変更している部分もございます。
筒井委員	前回の調査の回答者と今回の調査の回答者の連続性を分析に入れる予定ですか。
事務局	そこは同じ項目、または似ている系統の内容については、前回

発言者	会議内容
筒井委員 事務局 筒井委員 事務局 筒井委員 村山会長	調査からどうだったかというところを踏まえて、分析に入れていく予定です。 そうすると、先ほどご指摘の項目などは、表現がおかしいと思うので、修正したほうが良いと思うのですけれども、今回はこの質問で調査したのでしょうか。 問 22 は新規の項目になります。問 29 も新規の項目になります。問 49 も新規になります。 前回と同じものについては、回答傾向を比較する必要があると思います。ですので、今の追加の部分については、表現を変えるとか説明を追加することが必要だと思いますが、前回と同じ内容の項目については、できるだけ加えないほうが良いと思います。 それをまず基本にすることと、前回回答してもらった回答で、いわゆる回答率が低い、または未回答だった項目は分析されているのでしょうか。恐らくそれを重点的に項目としては入れ直す必要があると思います。 細かい分析はできておりません。 それはされたほうが良いと思います。未回答、回答ができていないのは、先ほど加藤委員がおっしゃったように、迷って回答できなかった、あるいは意味がわからなかったとかそういう内容になっている可能性が高いので、次回策定するときにそれはすごく大事な資料になるので、それを作られるといいと思います。 さらに、削除した問については、縦断的な分析をしなくていいと和光市で考えましたということをおわかってもらえるような理由を明確に示したほうが良いと思います。 ありがとうございます。最初の項目に関しては、先ほど加藤委員の指摘もありましたが、新規の項目は資料 1－1 の 8 ページ以降に全部まとめているので、恐らく資料 1－1 をご覧いただければ、新しい項目は選出できますし、例えば主食を重ねてというのも新規に入っているなというのがわかると思います。それ以外の項目に関しては、前回とほとんど一緒ということですかね。2 点目の回答がされていない割合が多い項目に関しては、前回の集計表を見ればわかる部分だと思うので、それは項目の問題なのか、それともたまたまといいますか、設問の配置の問題、ページの下にあったから答えづらかったとか、見にくかったというところもあると思いますので、その辺は印刷前に一度確認できると思います。 また、削除項目について、これらを削除していいんだという明確な理由を事務局でしっかりもんでいただければと思います。

発言者	会議内容
筒井委員	未回答者の分析はするべきだと思います。それは単純集計でできと思うのですが、例えば削除のところを見ると、答えにくいということがある。削除された項目を見ていると、毎日座ったり寝ころんだりして過ごしている時間はどのくらいですかは、回答が難しいかなと思います。毎日、昨日はこうで、今日はここだと、大体こうかなと回答されているんだと思うのですが、聞いても正確な回答が戻ってきにくいというのは、公募委員の方々が大変よく見てくださっているので、あらかじめ実際に回答してくれた人たちのお話を聞いて見直すのが一番重要です。 あと、今回は感染症とかで結構ご自宅にいた期間が長いと思います。ですから、前回と状況がすごく違うわけです。だから、削除した項目の中に結構面白い項目も入っていると思います。なので、削除は簡単なんですけれども、慎重にやられたほうがいいので、さっき申し上げた未回答率の話と、それから回答のしにくさ、それから回答者の特性とかと、こういう回答者が回答してもらっていないとかいう分析をしたほうがいいと思います。 未回答者分布。そういうことをやって削除するのであれば、20ページ以上にわたる調査をしていただいた皆さんに公開できると思います。
村山会長	ありがとうございます。実際に回答された人あるいはされるであろう人たちに、少し意図を伺いながら項目選定していくプロセスも大事かなと思いました。ありがとうございます。では、ほかの委員の皆様はご意見いかがでしょうか。
清水委員	資料1－2の「この回答を施策立案や学術研究に利用してもよろしいですか」というところの字についてですが、公表しますとか、匿名化しますというのが小さくて読みにくいです。これは大事なところだと思うので、もしレイアウトの関係でできるのなら、もう少し大きくしたほうがいいのではないのでしょうか。
村山会長	ありがとうございます。レイアウトの関係で、少しごちゃっとしている部分がありますので、もう少しわかりやすい形のほうがいいかなと思います。ありがとうございます。
大冢賀委員	私も全体的な感想が、ちょっと1枚の中に文字がたくさんあって読みにくいとか、読むのが嫌になってしまうので、そういう印象を与えてしまうともったいないと思いました。これを全体的に余力のあるレイアウトというか、それを見直していただいたほうがいいのかなと思いました。 また、前回の調査から設問数がどれぐらい増えて、ページ数が何枚増えたのかというのも結構大事な要素だと思います。というのは、やはりある程度の回収率が見込めたほうがいいと思います。前回の会議資料に調査人数であるとか、前回以前の回収率のデータの数字が載っていましたが、筒井先生がおっしゃられた

発言者	会議内容
村山会長	ように、この調査は二つの層から年齢階層別に抽出がなされていると思いますので、そこのところで年齢を重ねた結果、脱落してしまうともったいないと思いますので、そういった方々を落とさないような工夫も必要な項目です。 もう1つですが、全体的な内容を見る中で少し気になったのが、今回追加された項目で結構大きなウエートを占めるなど感じたのが、今回の資料の22ページ以降、仕事・有償ボランティアについてです。このパートは何をしたいかというのと、どういうお仕事をされていたのかということと、もし定年されていたら、その後社会で活躍してもらうためにまたつなげていくというボランティアであるとか、いろいろな活動につなげていくための資料を多分取られているんだらうなと感じていますが、ここを取る目的と今回の計画に関係するのかというところが気になっています。 ほかの事業とどのように結びついて、どのように活用していこうと考えていらっしゃるのかという想定とともに、ここのデザインを考えるべきかなと思います。一応前回もこのパートはあって、例えば今こういった仕事をしていますかということ、何時間くらい働いていますかといった項目、形は変わっていますが、今でいう問55に変わっています。問55-1の働く状況についてとかになっていますし、その目的とかも前回聞いていますが、新しいのは問56以降、どのような仕事に就いていて、どんな仕事に就きたいとか、仕事を選ぶ際に重視することとは、あたかもこの方々が退職された後、また新しい違う仕事に就くためのマッチングに使うのであろうみたいな項目が並んでいるので、これを今回の健康わこう21の中間評価に使う意味みたいなものをもう1回聞きたいなと思っております。 あとは、問56の1と2で、結構細かい仕事の経験、どういう組織で働きたいですか、問54と56の1、2は、漢字が並んでいますね。これを聞く必要があるのかということです。すごくこの辺にウエートを置いていると感じましたので、ちょっと確認させていただきたいと思います。 ここに关しまして、調査票でいうところの13ページだったり14ページです。ここは、市と我々の研究所で少し一緒にやっている、今後進めていこうとしている研究資料、あるいは市の事業と関係している項目でして、高齢者あるいはこれから高齢者になる人に対して、仕事であったりとか、あるいは有償ボランティア、あるいは無償ボランティアの活動を推進していきます。マッチングを進めていくという事業を現在進めており、それに関係するような項目になっております。 そもそも和光市の中で、こうした有償あるいは無償の活動に対するニーズがどのくらいあるのかを系統的に把握するのが非常に大事になってきますので、それを把握するのが13、14ページの目的になっています。健康わこう21の直接的な評価項目というわけではないですが、市のほかの事業に関する重要な項目ということ

発言者	会議内容
大夢賀委員	でこの設問を設定しているというところになります。 もう1点、非常に細かい業種等を聞いているところがありますが、このことに関しましては、もう少し検討が必要だということは認識しておりますので、回答者が回答しやすい項目を選定していく予定になっています。現状は現在のバージョンということでご提示しているところです。 ありがとうございます。よくわかりました。そうすると多分65歳以上、定年された方が新しく再雇用とかマッチングするのに使う基礎資料に多分なるのかなと思うのですが、そうすると調査票を分けないということだったんですけれども、例えば65歳以上だけここにご回答くださいとか、ちょっと分けて、一番最後に回すとかしていただけると、ちょっとこれは途中で埋め込まれているので、もし対象外の64歳未満の方が回答しなくていいんだったら、後回しにさせていただけるとちょっと軽くなるかなということなので、軽くしていただければと思いました。
村山会長	そうですね。その点も我々は検討したのですが、例えば若くても、もちろん会社勤めをされている方で仕事を辞めたいという人は少ないかもしれませんが、例えば主婦の層とか、若くてもパート・アルバイトをしている層であったりとか、そういう方々のニーズも、こちらで含んでみて、高齢者だけではなくて広い層の社会参加とか、社会貢献活動を推進していくという目的でできればと考えていたので、ここはあえて65歳以上とか切らずに、全対象者にお聞きするという形を現状は取っているという感じになります。 とはいえ、委員がおっしゃられたみたいに、少し文量が多かったり、負担感が強いという特徴にすべきではないと思っていますので、最終版になる前には改善できるように進めていければと思っています。ありがとうございます。 前半の前回からどのくらい設問数が減ったのかというところはいかがでしょうか。
事務局	前は問54までありました。今回はまだ加除がありますが、今お示ししている中では、問70になっています。ですので、ページ数は減っていますが、細かい項目としては、詳細な分析をしていないので、はっきり申し上げられないのですが、同等ぐらいかなと考えております。
村山会長	わかりました。ページ数は減ったけれども、単純な項目数で見ると問題数は増えているという、カウントすれば同じ問題ではあると思うんですが、そういう状況になっています。恐らくすごく増えたとか、すごく減ったということはなさそうな感じかなというところですね。ありがとうございます。では、まだ十分にご意見が伺えていない委員の方もいらっしゃると思いますが、時間もあ

発言者	会議内容
事務局	すので、一旦この協議といいますか、議論を打ち切らせていただきます。では、本日の意見を踏まえて、事務局にて調整した調査票を後日完成させていただきまして、また委員の皆様にご提示させていただければと思います。 それでは、次に進めさせていただきます。続きまして、審議事項2つ目、令和5年度食育アンケート（小学5年生・中学2年生対象）について、事務局から説明をお願いいたします。 保健福祉部健康保険医療課ヘルスサポート担当の平原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 説明資料は2-1で、実際に使用するアンケート項目は2-2となっております。2-1の資料のご説明をいたします。 1ページをご覧ください。。 本アンケートは、市内小中学校に通う、小5・中2の児童・生徒約1,400名を対象とし、学齢期の食生活等に関する実態を把握し、課題を明らかにするとともに、今後の食育推進の基礎資料とすること、また、第三次食育推進計画の目標・指標の進捗管理と中間評価の資料として使用することを目的としております。 実施方法は、生徒・児童に配布しているタブレットを使用したWebでの回答方式とする予定です。授業内での実施とするので、回答率は95%を見込んでおります。 2ページ、3ページは、各校の対象人数及びエリアごとの割合を記載しております。 アンケートは無記名実施なので、個人の特有的はできないのですが、欠食など課題があった際にエリアごと、学校単位での抽出、そしてクラス単位での把握が可能です。アンケート結果や課題は学校教育課、教育委員会にフィードバックをいたします。また、地域の包括支援センター等の関係施設、関係課でも課題の共有をし、取組に繋げていく予定でおります。 4ページは食育推進計画の体系図となっております。 本アンケートは、基本方針1、ライフステージ・健康度別の課題解決型食育の推進の学齢期と、基本方針2の公民協働による食育推進の地域に置ける食育の推進・普及という部分が該当いたします。学齢期は、伝統的な食文化や地域農業等への理解を育むこと、また自らの健康に関心を持ち、健康的な食生活、食行動を自分から取り組むことができるような育成を行うことを目標としております。アンケートの説明においても目標設定に沿った内容となっております。 基本的には令和元年度に行われた内容をベースにしておりますが、令和元年度は、食育アンケートに加え、心の健康や休養について問う設問がありましたが、今回は先ほど申し上げた目的から、食育アンケートに絞っております。では、前回の食育アンケートから変更した内容について次の5ページから順にご説明いたします。 5ページをご覧ください。「あなたは良い食生活を送れている

発言者	会議内容
	と思いますか。」という設問を削除しました。 削除した理由として、大人になると、「良い食生活」というのはどの人も同じような認識になるかと思うのですが、対して、子供が考える「良い食生活」というのは、解釈に多岐に渡ってしまうことが考えられることから削除としました。食生活の QOL を問う設問と、食事バランスを問う設問は既にあるため、削除の方で考えておりますが、代替案として、良いという部分を「健康的な」という表現に変更し設問を残すか検討中です。「健康的な食生活」という表現で問う際には、栄養についての履修後が良いと考えられるため、中 2 のみの設問が良いかと考えております。 6 ページの資料内に Q1 の設問内容は、「あなたは 3 食食べていますか」という設問で平日と休日に分けて聞いております。その選択肢の中に、お菓子など食事以外のものを食べてしまうという選択肢を加えました。 7 ページの和光市内で開催されている、食育に関するイベントの参加についての設問です。回答選択肢の中に、こども食堂という選択肢を追加しました。こちらは、和光市内で、こども食堂の取組が増えてきたこともあり、項目の中に入れさせていただきました。参加状況や認知度を把握し、取組につなげて行きたいと考えております。 8 ページの自治体や企業の食育の取組について、参加意思の有無についての設問に対する回答選択肢の中に、インターネットなどで食育について調べるという項目を追記しました。これについては、企業の HP などでも児童向けの食育ページが取り上げられていること、市の HP でクッキング動画などの youtube 配信やレシピ掲載を行っていること、そして、国の第 4 次食育推進計画ではデジタル化に対応した食育推進が重点事項として追加されていることから選択肢に入れることとしました。 9 ページの Q14 ではわこう食育認定マークの認知度に関する設問を追加しました。スーパーマーケットやコンビニエンスストア等で取り扱う商品のうち、健康に配慮し、市の基準を満たしたものに対して掲示しているマークです。家族と買い物をする際に掲示を見たことがあるかという認知度の把握とともに、このアンケートから認定マークの存在を知り、買い物時に意識を向けてもらえたり、家庭内でもこの取組に関して話題にあがるきっかけになればという思いを含め、追加しております。 Q15 では、食についての悩みや困ったことに関する自由記載欄を設けました。 こちらは、貧困による欠食や食生活の乱れがある家庭の把握を目的としております。先ほども申し上げた通り、個人の特定はできませんが、クラス単位やエリア別での把握ができるので、施策にもあります通り、関係課と共有し、取組や支援に繋げていきたいと考えております。 食育アンケートについてのご説明は以上になります。

発言者	会議内容
村山会長	事務局の説明が終わりましたので、この調査についてご質問、ご意見などありましたら、お願いいたします。
細田副会長	4番のあなたは普段外食をどのくらいしますかという質問の内容ですが、趣旨は大体わかりますが、最近では割と普通に食事としてコンビニのおにぎりを買って家庭でも食べたりする人が増えており、揚げ物を自分でする人はかなり少なくなっているかなと思います。 外食の言葉の定義として、例えば、買ってきた唐揚げでご飯をした場合は、外食なのか、その辺が非常にボーダーレスというか、判断が子供にできるのかなというのがあります。例えばもう少し具体的に、これは外食と判断しますと決めたもの、そこに書いてある例えばピザのデリバリーと取ったら外食だよねとか、あとお弁当だけだったら外食であるとか、もう少し定義をしないといけないと思います。お母さんが何か買ってきて食べた、これは外食かなと思っちゃう子もいるし、そうじゃない子もいるのではないかなと思いました。あと、どのような意図があってこれを聞いていらっしゃるのかなということですね。いわゆる食の放置というような、勝手に子供が自分で買って食べるのか、ある程度親が栄養バランスを考えて買ってきて食べさせているのかとか、きっとそういうところが大事になってくるのではないかなと思うのですけれども、いわゆる自分で勝手に買ってきなさいなのか、親がある程度セットアップして準備した、いわゆる買ってきた食材なのかとか、そういう聞き方のほうがいいのかとも思ったりしました。
事務局	ありがとうございます。もう一度目的に沿った設問内容になるように検討したいと思います。
筒井委員	今の中身と共通すると思いますが、よい食生活の概念設定がやっぱりないんじゃないかなと思います。よい食生活というと規則正しいとか、栄養のバランスがいいとか、食事を家族そろって楽しくしているとか、そういう条件がよい食生活の基本になるんだと思います。子供に聞くわけですから、平均的な食生活はないんじゃないかなと思います。だから、そういう条件がクリアされている食事。 あと、普段というのが結構難しくて、これは回答したその日がいいと思います。その日か前の日、前の日はどうだったかという聞き方のほうが迷わない。食教育というものをやられていると思うので、その中でよい食生活はこんな感じだよという、それを使って構成し直したほうがいいと思います。 食事の種類が今は変わっています。コンビニから買ってきたのは外食とは言わなくて内食。中間食みたいな概念設定がもうされているので、そのことを学んでいるということを前提にした設問にされたほうがいいと思います。

発言者	会議内容
事務局	学校教育課の栄養士とも協議の上で、また検討したいと思っております。ありがとうございます。
大冢賀委員	私も同じようなことを思いまして、もう少しダイレクトにそういったものがわかるような、果物をどのくらい食べているのか、野菜も3食にどのくらい入っていますかとか、そういう聞き方のほうが具体的なのかなと思いますので、今の2人の委員のご提案と重ねてご検討いただければと思います。 私が気になるのは、生活困窮との絡みで子供の生活支援のところの取組との連動の話が出てきており、今回は食育のアンケートで、そのアプローチだと思うのですが、問15で新設されて「食」に困っていることあたりからネグレクトっぽい文言を拾おうという意図だと思うのですが、ほかにもこれはあからさまにネグレクトであるような、例えばお菓子をとても頻繁に食べるとか、食事の代わりがお菓子になっているとか、菓子パンをとてもよく食べるとか、相応の食生活があるかわからないですが、そういう例示をするなど、そういうあからさまな設問をつくってもいいのかなと思います。そういうものがあれば冒頭でおっしゃられたクラス単位でそういう児童がいると把握して、その介入につなげていくこともできると思うので、何かそういう工夫を検討してもいいのかなと思いました。
事務局	「あなたは3食食べていますか」というところの選択肢の回答項目の中に、お菓子など食事以外のものを食べてしまうと入れたのですが、少しそれだと弱いのかなとも思ったりしましたので、また検討したいと思います。ありがとうございます。
加藤委員	これも自分でアンケートをするつもりになってやってみると、食育イベントの選択肢なんですが、ほかはイベントになっているのですが、7番だけが和光市でとれた農産物を食べたことがあるというので、これは絶対給食には入っているのですから、本来どの子も丸となります。駅でやっている和光市産野菜の販売会に行ったことがあるとか、JAでやっている市内の販売所で購入したことがあるにしないと、この質問だけはちょっと周りの項目に比べて違和感があると思いました。
事務局	質問の回答内容ですとか、質問の項目を別にするなど、もう一度再検討したいと思います。ありがとうございます。
清水委員	この聞き方ですが、和光市でとれた野菜と認識してと言ったらおかしいですが、理解して食べたことがありますかということだと、多分この中に入るのはないでしょうか。もちろん給食にはあると思いますし、そういうのを意識しているかどうかというところでいいかな。別にする質問も簡潔にしたほうが

発言者	会議内容
細田副会長	いいと思う。それも考慮していただければと思います。以上です。 削除する予定になっている「あなたはよい食生活を送れていると思いますか」というのは、残してもいいのではないのかなと思います。他の答えの様子で、これってあまりよい食生活とは一般的には思えないよねというのもありなんじゃないかと思います。私たちが判断するよい食生活とのギャップがあると思いますので、例えば5年前に調査された時と今でどういうふうに変化しているとか、今の若い子たちがそういう食生活なんかの食育を受けながら、割とターゲットにする機会が多いはずですけども、どういうふうに変化したとか、食育の効果があつたのか。そういうものを判断するざっくりとした質問としてはどうでしょうか。逆に言うと、いいと答えられない子たちが、やっぱり日頃お菓子ばかり食べていたりとか、よい食事は1日1食しか食べないということだったら、やっぱり自分ができていないのはわかっているんだとか、そういうことにもなると思うので、食育の効果を見る上でもいいのかなと思いました。ご検討いただければと思います。
村山会長	ありがとうございます。私も同じようなことを考えていまして、学齢期の目標で健康的な食生活・食行動を実現できるというのが書いてあって、3食食べるとか、野菜をたくさん食べるというようなこっちが設定する健康的なことがあると思うのですけれども、実は子供たちは全然できていないのに自分は健康だと思っているとか、それはあまりよくないことと捉えている。 そのギャップを埋めるのが食教育と思うので、今後どの部分を埋めていく必要があるのかという指標であつたり、目標を設定するためにも、細田委員が言うところのざっくりとした項目というか、それを取ってもいいのかなと思いましたので、ご検討ください。 私からもう1点あるのですが、最後の問15、自由記載の問題で、「食」について困っていることとありますが、小学校5年生には、この聞き方がふさわしいのかどうかと思いました。 例えば、あなたご自身の普段の食生活とか食事の内容で「何か困っていることとか悩んでいることはありますか」と、わかりやすい聞き方にしたほうがいいかなという気がしました。あと大夢賀委員がおっしゃったかと思いますが、ここで何が取りたいのかというのが、ある程度明確なものがあるのであれば、例を示しておくとか、取りたい内容が取れるような工夫はあってもいいかなと思いました。
村山会長	時間となりましたので、ここで一旦質問を打ち切らせていただきます。 こちらの調査票についても本日のご意見も踏まえて、事務局にて調整した調査票を完成させてもらえればと思います。

発言者	会議内容
事務局	以上で審議事項については終わります。 それでは、その他事項について、事務局お願いします。 2点お知らせがございます。本日は限られたお時間でしたので、もしこの場でご発言ができなかったご意見がありましたら、追加で頂戴できればと思います。5月15日月曜日までに、事務局にメールまたはファクス等でお知らせください。よろしくお願いいたします。 2点目ですが、今後のスケジュールと次回の審議会の開催予定についてご案内いたします。本日お配りしましたお手元の今後のスケジュールをご覧ください。今回ご審議いただいた絆調査等につきましては、6月15日から調査票の送付を予定しており、回収した回答は入力作業と分析作業を順次進めてまいります。次回、第2回ヘルスソーシャルキャピタル審議会は、令和5年11月以降の開催を予定しており、絆調査の回収状況、そして施策への反映を議題としてご審議いただく予定となっております。詳細な開催日程につきましては、改めて事務局から調整させていただきます。また、それ以降といたしましては、令和6年1月に中間評価案の作成、2月にパブリックコメント及び市民説明会の実施、3月に中間見直しの最終決定と公表を行う見通しとなっております。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。
村山会長	ありがとうございます。今説明がありましたが、5月15日を締切りとして今回出せなかった意見等を寄せていただければと思います。その後意見集約をいたしまして、2つの調査票にどう反映するかは委員長に一任ということにさせていただければと思っております。 それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回ヘルスソーシャルキャピタル審議会を閉会いたします。本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

議事録署名

清水 勝子

木田 亮